

## 世界

PMI／購買担当者景気指数（2020年3月）

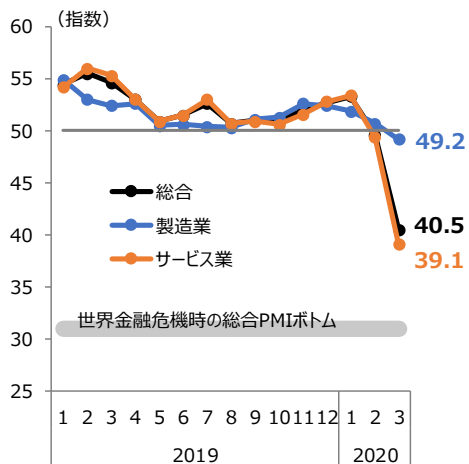
## 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各国PMIは記録的低水準に

政策・経済研究センター

森重彰浩

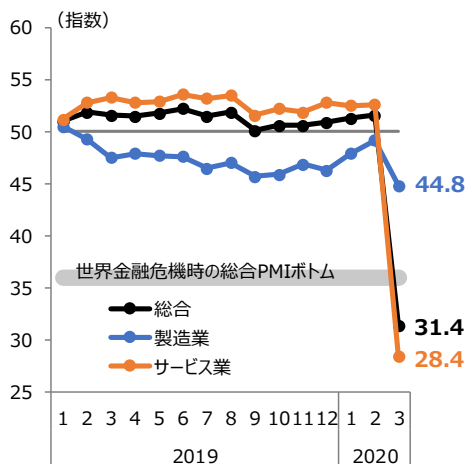
03-6858-2717

## 1 米国



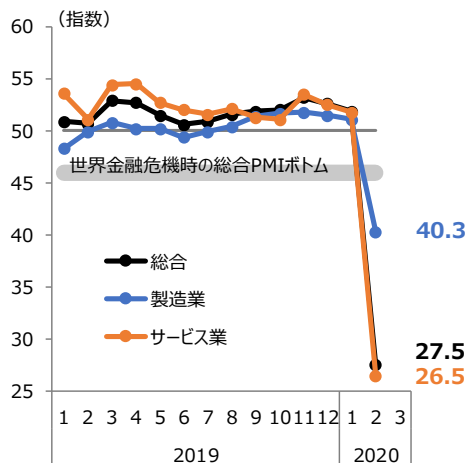
資料：IHS Markit

## 2 ユーロ圏

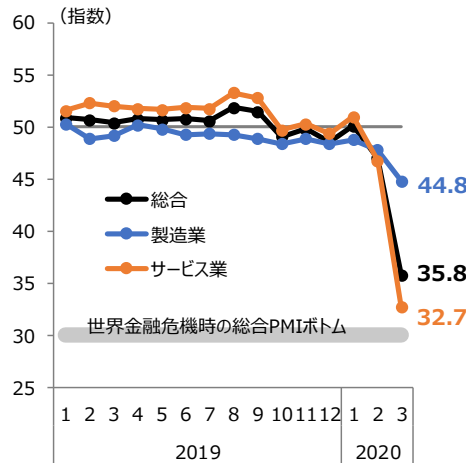


資料：IHS Markit

## 3 中国（3月分は4月上旬公表）

注：直近値は2020年2月。世界金融危機時の総合PMIボトムは製造業とサービス業からGDPで加重平均。  
資料：IHS Markit

## 4 日本



資料：IHS Markit

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 2020年3月のPMI（購買担当者景気指数）は、各国とも記録的な低水準となった。新型コロナウイルスの感染拡大とともに、PMIの悪化も中国から世界に波及した。各国は、交通網の遮断や外出禁止など経済活動への規制を強めている。需要が蒸発した状況にあり、小売や飲食・宿泊、運輸、娯楽などサービス業PMIが大幅に悪化。
- 3月の悪化幅が最も大きいのがユーロ圏である（図表2）。サービス業PMIが28.4となり（1998年7月の調査開始以来、最低）、前月の52.6から急激に悪化した。新型コロナウイルスのオーバーシュート（患者の爆発的な増加）が発生しているイタリアのPMIは現時点では公表されていないものの、死亡率が突出して高く、全土で移動規制が敷かれていることから、ユーロ圏平均よりも悪化幅は大きいとみられる。
- 米国も3月のPMIが悪化したが、総合指数が40.5と主要国の中では最も高い水準にある（図表1）。製造業PMIが49.2と緩やかな低下にとどまっているほか、サービス業の落ち込み幅も相対的に小さい。調査が行われた3月12-23日の後半に、カリフォルニア州での外出禁止発令や自動車大手の生産停止が実施されたことから、これら影響が部分的にしか織り込まれていない可能性はある。
- 日本は3月のサービス業PMIが32.7となり、2007年9月の調査開始以来最低となった（図表4）。世界金融危機（2008-09年）や東日本大震災（2011年）の総合PMIのボトムが30程度であり、これに近い水準にまで低下した。

## 基調判断と今後の流れ

- 新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、PMIは大幅に悪化しており、世界金融危機時に並ぶ記録的な低水準となっている。
- 米国や欧州では調査が行われた3月中旬以降、状況は日々悪化しており、4月のPMIは一段と悪化する可能性がある。各国で大規模な経済対策が打ち出されているが、感染終息なくして消費刺激策も効果を発揮しない。PMIはGDPとの相関が高いとされ、特に2020年4-6月期の欧米のGDP成長率は大幅なマイナスが濃厚だ。
- 一方、中国では新規感染者が減少するなかで、経済活動も徐々に再開の動きがみられる。中国のPMIがいつどれほどの回復をみせるかが次の注目点となる。